

○キャリアガイダンス（1年生）報告

社会で活躍されている本校の卒業生に、受験やその後の人生における様々な経験についてお話しいただくことで、どのような進路選択の可能性があるのか、どのような力が実社会で必要されているか、またそのために今準備できることは何か、ということについて生徒に主体的に考えさせる機会とすることを目的に、9月7日（水）、6、7限にキャリアガイダンスが実施されました。講師を務めてくださった10名の卒業生を紹介します。

講師紹介（略歴抜粋）

- ① 馬場悠男氏（15回生） 国立科学博物館
名誉研究員・医学博士（東京大学）
- ② 橋本健一氏（19回生） 元・千葉県立保健医療大学教授（生物学）
（生物部 OBOG 会幹事・朝陽同窓会用副会長）
- ③ 佐藤重和氏（20回生） 元・駐オーストラリア・タイ大使
- ④ 国沢真弓氏（33回生）フリーアナウンサー
NHK『きょうの料理』『婦人百科』『おしゃれ工房』（司会進行）約10年間担当
- ⑤ 濱口建氏（34回生）博報堂テーマビジネス開発局 アカウントディレクター
（在学中バスケット部・軽音楽部に所属）

- ⑥ 入澤武久氏（36回生）弁護士、日本大学
大学院法務研究科兼任教員
- ⑦ 中西智美氏（38回生）千葉県公立学校養護教諭（在学中水泳部に所属）
- ⑧ 畑中千晶氏（40回生）敬愛大学准教授
（日本文化論、日本近世文学）
- ⑨ 原田将史氏（48回生）日本工業大学非常勤講師・蔵野美術大学非常勤講師
- ⑩ 田久保裕之（52回生）都立小山台高校定時制教員。小山台高校にて硬式野球部助監督として2014年春 甲子園出場

◇国公立大学入試対策会（予告）

9月30日（金）午後1時15分から、3年生とその保護者の方を対象に「国公立大学入試対策会」を実施します。前半は駿台予備学校東日本教育事業部部長の中村悟一氏による「国公立大学合格に向けた最新入試情報と受験勉強のポイント」と題した講演。後半は、国公立大学に進学した68回生の卒業生4名から、自分の体験談をもとに語ってもらう予定です。先輩が母校のために時間を作って来てくれます。

受験勉強で時間が惜しい3年生ですが、この会の話は聞く価値が大あります。国公立大をめざす人はもちろん、それ以外の人も是非参加してください。

先輩からの言葉

看護師という職業を通して人や社会の為に役に立ちたい



吉田愛子 新38回生（昭和61年卒）

私は看護師として働き、28年になります。看護師になる決意をしたのは皆さんと同じ新宿高校在学中です。それ以前の小中学生の頃、この職業を意識するきっかけとなったのは、ご存知「ナイチンゲール」と、お恥ずかしながら当時流行したアニメ「キャンディキャンディ」です（笑）。明朗活発な主人公の小さな女の子が様々な経験をしな

がら成長し、悩んだ末に看護師になり、また様々な経験をしながら泣き笑いするという内容です。この二人の看護師像から当時の私が受け取ったものは「人や社会の役に立ちたい」という思いと「人への愛情や思いやりの大切さ」「人間関係の素晴らしさ」という事です。この思いは50歳近い現在に至るまで、一貫して私の中に熱く燃え続けてい

ます。人間としての価値観でもあり、看護師という職業の真髄でもあると思います。

新宿高校一年生の頃、「将来の希望」を書く機会があり、私はまだ両親にも話していなかった「看護師になりたい」という思いを迷わず記入しました。当時担任をして頂いていた今は亡き島田房二先生に「一年生で目指すものが絞れているのは素晴らしい！」と大きな声で言って頂き、背中を押して頂いた事をよく覚えています。当時看護大学と言うのは少数でした。遠くて実家から通えない国立大学か、授業料が通常より高い私立大学と言う狭い選択肢で、浪人した兄と同時に受験になった私は高校生ながらに気を遣い、授業料の殆どない3年制看護専門学校へ進みました。両親は大学に行った方が良くはと言ってくれましたが、同じ看護師の資格が取れるから大丈夫と豪語した事も覚えています。(現在は医療系の大学も増えていますので選択肢は広がりますね。大学ですと保健師や助産師等の資格も取得でき職業の幅も広がります。)

総合病院に就職し、一年目の途中でなんとICU(集中治療室)へ異動との辞令が出ました。当時の自分にとってICUは雲の上、大ベテランしか勤務していないイメージでしたので、かなり驚きました。総婦長との直々の面接で「一年目の新人をICUに異動させるのは初めてですが、新宿高校の出身と聞きました。大丈夫でしょうか？頑張って」と言われました。ICUは重症の方が多いので、勤務中緊張の連続です。しかし緊張は知識が少なく自信がないからおこるのです。これを機に、学生時代の机上の勉強とは違う、刻々と変化する目の前の患者さんの病態や臨床データを、猛勉強しました。そして勉強すればするほど人間の体の神秘さに驚きや感動を得て、医学は面白いと感じ、仕事も緊張しながらも楽しさを感じるようになりました。ICUの師長が、腕で円を作りながら「人間は勉強して知識が増えれば増えるほど、そのまた周りの事に疑問を持ち更に勉強したくなる、また、そうして謙虚な人間になるのよ」

と話してくれました。この人生で出会った大切な言葉の一つです。

医学的な勉強と同時に、看護師は患者さんの日常をいかに快適に過ごせるようにするか、また精神的な面でも「ケア」が重要な仕事でもあります。沢山の点滴や呼吸器の安全な管理と同時に、カチコチに緊張している方には肩こり解消に体操したり、呼吸器つけながらも筆談で冗談を言い合いました。入院中でも病気でも、少しでも笑顔を引き出してあげたい。病気や治療への不安や困惑を察知して、心に寄り添うことも大切です。心臓発作がいつ起こるか判らないという状態なのに「死ぬ前にどうしてもシャワーに入りたい」と切望する方がいて、医師とご家族を含めて何度も話し合い、救急カートをシャワー室の横に運び医師と待機しながらシャワーを実践しました。シャワー後の嬉しそうな笑顔は今でも覚えています。

医学の勉強は医師のレベルとは全く違うと思いますが、専門分野に限られていない看護師は配属された部署により様々な経験や勉強ができる事、また、ライフスタイルや自分の好みに合わせて職場環境を選択できることも魅力だと思っています。(子育て中の私は、現在夜勤の無い総合外来に努めています。)

社会人になっても私のコアな部分にはいつも新宿高校があります。よく仲間と歌った六中健児の唄「湧き出る若き力 揺るがぬ意思もて 奮闘と努力やまじ 我等六中健児 いざ進めたゆまず往け 校旗を四方に輝かせよ」一人でいても何度口ずさんでいるかわかりません。この先おばあちゃんになっても、熱い思いを抱きつつ生きていたいと思っています。

新宿高校の後輩の皆さん、どうかご自身の「心の声」「熱い思い」をよく聞いて、自分の進む道を選んでください。まだ心の声が聞こえなかったら、一生懸命勉強していると自ずと聞こえてくるはずですよ。そして意思をしっかりと持っていれば道は必ず開けてきます。一緒に校旗を四方に輝かせましょう！(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)